

トピックス



大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

「オオクワガタの棲める森づくり下刈体験」



【箕面森林ふれあい推進センター】 箕面森林ふれあい推進センターでは6月30日（月）、大阪府北部の箕面国有林において箕面市立萱野北小学校5年生53名を招いて「オオクワガタの棲める森づくり下刈体験イベント」を開催しました。

梅雨にあたるこの時期、雨間の好天で薄雲がかかる穏やかな日となり、児童にとっても気持ち良く取り組みました。

開会式の後、心と体をほぐすため「イモムシじゃんけん」（負けた人が後ろにつながっていく）をして、最後まで残った4名には記念品として「サクラヤンマ」（サクラの枝で作ったトンボの標本）と木製キーホルダーをプレゼントしました。

午前中は、「オオクワガタの棲める森づくり」箇所での下刈体験と植樹体験を行いました。下刈体験では、日本森林ボランティア協会（協力団体）の皆さんから、なぜ下刈をするのかや鎌の安全な使いかたなどを説明した後、実際に鎌を使って下刈を行いました。男の子も女の子も「私もやりたい」と積極的に鎌を使って草を刈ることに熱中し、「気持ち良く草が刈れて、すごく楽しい。」と、初めての体験にはしゃいでいました。植樹体験は、4～5人で班となって2本ずつ、クヌギやコナラ、ヤマザクラを植え、鍬で穴を掘ってあっという間に植えてしまいました。植えた場所を覚えておいて、何年後かにまた見に来てねと話しましたが、今度来た時には大きく育っていることでしょう。

午後は、「森の探検隊」として、「箕面体験学習の森」



の中に31箇所の探検ポイントを作り、12班に分かれて5箇所以上を探検しました。地図からポイントを探し出すと、そこには指令書とヒントの封筒があり、指令書に書かれた謎を解き明かしていぐものです。各ポイントは、防鹿柵や台場クヌギのほか昆虫トラップや植物など、幅広く学習できる内容となっています。一番人気があったのは「昆虫の集まる木」で、はしごを登って木の内部が空洞となっているところを懐中電灯で覗いて「あー！コクワガタがいるー」と歓声が上がっていました。ほかにも、モリアオガエルの卵を観察したり、ニガイチゴ・ナガバモミジイチゴの実を食べて見るなど、初めて体験することが多かったのではないのでしょうか。森のエビフライ（リスの食べた松ぼっくりの芯）にも人気があり、「エビフライそっくりー」となんでこうなったか推理、そばに落ちていた松ぼっくりを剥き始め「ほら！エビフライに形が近くなった」と、その犯人捜しで「リスが食べた？」「リスいるのかなー」と班内で議論し、あとでヒントを読んで「やっぱり！！あった」と満足そうな様子でした。

大阪府の箕面公園昆虫館の久留飛館長にも来ていただいて、子どもたちの昆虫の質問などに答えて頂きました。

後日、学校で各班からの発表会を計画しており、自分たちの体験したことをどのように話してくれるのか楽しみです。

一日がかりで、多くの体験をしてもらいましたが、この日の経験は子どもたちの記憶に残ったに違いありません。これらのことが、森林や林業、自然などへ目を向けるきっかけになればとスタッフ一同願いながらイベントを終了しました。

その後7月15日に、萱野北小学校において、イベントで実施した「森の探検隊」で体験したことを、子どもたちがとりまとめ、発表会が行われました。

「森の探検隊」は、質体験学習の森内にニホンシカによる食害から守るネット等の設置や小鳥の巣、昆虫や植物に関するものなど、31箇所のポイントを設置し、ポイント毎に指令書（問題）とヒントの袋を置いて、指令書に従って班で考えて回答していきながら、ポイントを回るというものです。



子どもたちは事前に、12班に班分けをして、各班で相談し探検した

いポイントを最低5箇所を選びました。当日は、各班で選んだポイントにある指令書を見て、なぜなんだろうと議論して、その内容を書きとめたり、デジカメで写真を撮ってもらいました。

小学校に帰って各班で、気づいたことや印象に残ったことを写真を交えて模造紙にまとめ、その発表会が7月15日に各教室（2クラス）で、元気いっぱいに行われました。

「シカとの戦い」などは、12班のうち半数以上が探検しており、「シカが植物を食べることを初めて知った」「パッチディフェンスなど、ちゃんと工夫されていると思いました」「シカが入ってきて木などを荒らさないようにするためいろいろ工夫していて、毎日戦うのは大変だから工夫するのはいいことだと思いました。」など理解してもらえたようです。食べられる実（ニガイチゴやナガバモミジイチゴ）を食べたり、モリアオガエルの卵の観察、ウシガエルの声を聞いたことや森のエビフライ（リスの食べた松ぼっくりの残骸）を観察したりと色々な思いや発見が発表されました。

普段体験できない森での出会いなどが心に残っているようです。これからも森に興味を持ってたくさん学んでほしいと感じました。

○シカとの戦い（パッチディフェンス） 発表内容

1組

1班 「シカが植物を食べることを初めて知った」

2班 「門と階段は、動物が入ってこないようにして、入っても足が引っかかるように工夫しています。階段は5段あります。門には、ちゃんとカギも付いています」

3班 「パッチディフェンスは網を破られたらすぐにシカが入ってくるから二つ網があります。ちゃんと工夫されていると思いました」

4班 「シカに、草や実を食べられないために、柵をしていることを知って、シカにとっても警戒しているのかなと思いました。」



2組

1班 「周りをよく見てみたらフン

だらけでした。、シカに新しい葉が食われてしまった。そしてポイント付近で見つけたものは葉っぱだった。これを見て、僕はこんだけシカがいてすごいと思った。だから森の皆さんの工夫しているんだというのは、シカとの戦いで分かった。そして柵が作られていて、どうやって作られているのかが知りたくなりました。」

2班 「シカとの戦いの横を見たら、木と草がいっぱい生えていました。木が斜めになっていたのが気になりました。シカとの戦いと聞いたので、シカが木を斜めにしたと思いました。でも草が生えていたのがなぜか分かりませんでした。」

3班 「シカが入らないようにする柵です。柵の階段には穴が開いていて、シカが入ろうとするとシカの足が穴にはまるという工夫だそうです。僕はよく、こんな工夫を思いついたなと思いました。」

4班 「階段には穴が開いています。理由は、シカが入ってきて木や花を荒らさないようにするため穴をあけています。シカの足が細いので、穴に挟まってしまいます。それで防ぐことができています。毎日戦うのは大変だから工夫するのはいいことだと思いました。」



ニュース

出前講座を実施 ～国有林野事業などを紹介～

【山口森林管理事務所】 平成26年7月1日（火）、山口県立山口農業高等学校において、森林科学科（森林資源コース）2年生14名を対象に、山口森林管理事務所の業務の紹介や公務員試験に向けての取組み等について、講義を行いました。

これは、山口農業高等学校が職業理解及び進路指導の一環として、外部講師による講義を計画されたものです。

当日は、当所から谷所長と平木職員が講師として出向き、最初に谷所長より林野庁の組織、山口森林管理事務所の管内概要を紹介し、滑マツや木材利用について講義を行いました。

また、平木職員からは、自分の経験を交えて、公務員試験に向けての取組み等について、説明を行いました。

生徒達は、時折、うなずきながら真剣な眼差しで講義を聴いていました。

今回の講義をきっかけに、国有林の仕事に興味を持って、一人でも多くの若い力が入庁を希望してくれることを期待しています。



林業専用道現地検討会を開催

【和歌山森林管理署^{にしのかう}】 7月15日（火）、日高郡日高川町の西ノ河国有林で和歌山県との共催による林業専用道現地検討会を開催し、県、市町の林道事業担当職員、森林組合、民間事業体、和歌山森林管理署の職員合わせて81人が出席しました。

同国有林のエリアは、平成21年度に和歌山森林管理



署、（独）森林総研和歌山水源林整備事務所、住友林業株式会社との間で、美山地域森林整備推進協定を締結し、森林の多面的機能の高度発揮を図るため、効率的な森林整備を計画的に進めています。

冒頭、牧野署長から「国有林で現在開設中の林業専用道を見て、関係者と広く意見交換していただき、本日が有意義な現地検討会になることを期待します。」と挨拶し、続いて、和歌山県林業振興課から県林業専用道作設指針、事業実施要件、補助率、県内における実施状況等の説明を受けました。

その後、西ノ河39林班林業専用道新設工事現場、平成22年度作業道作設工事実施箇所及び23年度に同箇所、林業専用道への拡幅工事実施箇所へ移動し、当署職員から工事の概要について説明しました。民間事業体の職員から林業専用道作設にあたっては、どのようなことに注意するのか、木材集積場の考え方、mあたりの単価等について、質問が出されました。

また、平成24年度に実施した搬出間伐を含む森林整備事業についても概要を説明後、意見交換し、林業事業体を中心とした参加者から、搬出間伐する上での事前の搬出ルートの考え方、搬出材の販売単価、間伐率と指定施業要件の考え方など、数多くの質問が出て参加者の熱心さをうかがい知ることができました。



中学生が職場体験に きました！

【滋賀森林管理署】 6月30日（月）から7月4日（金）までの5日間、職場体験学習として大津市立田上（たがみ）中学校の2年生3名を受け入れました。

梅雨期間中の体験学習となりましたが、4日目を除いて天候に恵まれた5日間となりました。

1日目の午前中は、生徒たちは緊張した面持ちで、滋賀森林管理署の概要説明、日程、安全などの注意事項等の説明を受け、午後から、栗東市の金勝山（こんぜやま）国有林において、林野巡視を行いました。国有林の境界



沿いの遊歩道を歩きながら、境界標を探して異常の有無の確認や、遊歩道に倒れそうな木及び枯れている危険な木がないか、また、案内看板はきちんと取り付け

られているか等の確認も併せて行いました。生徒たちは、初日ということで緊張していましたが、遊歩道を元気に歩きながら、ひとつひとつの確認を着実に実施していました。

2日目は、真夏と思わせるような暑い日となりましたが、カワウによる被害を受けている近江八幡市にある伊崎国有林で、森林被害の状況、カワウ観察や137年生のヒノキの樹高と胸高直径を測りました。生徒たちは、熱中症にならないようにコマ目に休憩をとり水分補給しながら、最後まで頑張りました。



3日目、午前中は大津市にある六個山（ろくかさ）国有林で間伐作業を体験をしました。大津首席森林官等の指導のもと、3名は1本ずつ不慣れながらも安全に注意し、



ノコギリで受け口をつくり伐倒作業を行いました。

午後からは、大津市にある一丈野（いちじょうや）自然休養林の遊歩道整備として、草刈りや枯れ木の除去を行いました。真夏のような暑い日差しの中、元気いっぱい作業行い、体力やエネルギーも、使い果たした感じでしたが、充実した一日となったようです。

4日目は、午前中滋賀県甲賀市に所在する甲賀林材株式会社甲賀木材市場で競り市を見学し、午後同市にある三郷山（さんごうやま）国有林で今年度の間伐実行箇所（活用型）を見学しましたが、当日はあいにくの雨となり現場での作業が行われていなかったため、少し残念そうでした。



最終日の5日目は、林道整備を体験をしてもらいました。まず、林道事業とはどういう目的で何のために林道を作っているのか資料をもとに説明を行い、その後、昨年9月に発生した台風18号による集中豪雨で決壊し



た、滋賀県大津市の田上地区の県道を実際に見ることで、自然災害の恐ろしさを実感してもらいました。

次に、甲賀市の三郷山国有林内にある三郷山林道に移動し、林道整備の体験をしました。

作業内容は、横断溝にたまっている土砂を取り除く作業です。事前に作業方法、作業の際の注意点などの説明を受けた後に、3人で力を合わせて作業を行っていたのですが、思っていた以上に土砂がたまっていて、予想以上に大変な作業となりました。3名からは、「1週間の体験で今日が一番きつかった」と本音が出る場面もありました。

きつかった作業も無事に終わり、きれいになった横断溝を見た後に昼食をとり、その後、三郷山林業専用道第一支線新設工事の工事現場を見て最終日の体験を終えました。

生徒3名は、暑さの続く中、慣れない作業で疲れた様子でしたが、森林を守ることの大切さや、重要さを感じ



てもらったのではないかと思います。

最後に、3人で力を合わせて作業を成し遂げたことや、今回の体験で得た知識・経験をこれからの中学校生活に役立てていただきたいと思います。

大阪府立高津高校1年生5名が職場訪問

【総務企画部 総務課】 7月10日(木)、体験型進路学習(職場訪問)として、大阪府立高津高校1年生5名の生徒が近畿中国森林管理局を訪れました。

まず、当局職員から、国有林野事業の概要等について、パンフレットを用い簡単に説明し、生徒からの質問を受けました。

質問は、現在の林業を取り巻く状況、都市開発に係る森林破壊、世界遺産、地球環境、自然災害、里山の重要性など多岐にわたり、中でも、仕事をしてやりがいを感じる、仕事をするうえで気をつけていること、なぜこの仕事に就こうと思ったかとの質問では、若手職員からベテラン職員まで一人ひとりが体験談などを交え、一つひとつ丁寧に分かりやすく答え、生徒達は熱心にメモを取っていました。



森林管理局がどんな仕事をしているか全く知らない生徒たちでしたが、今回の職場訪問で多少は理解してもらったのではないかと思います。

最後に、職員から、ぜひ林野庁、森林管理局に入庁してくださいとお願いし、職場訪問を終了しました。

お知らせ

「春日奥山古事の森」

～「奈良・吉野林業三百年」森づくりの「技」に学ぶ～

林野庁では、全国の歴史的建造物や伝統工芸などの木の文化継承のため、必要な木材や樹皮などの資源供給を行うことを目的として、400年に及ぶ森づくりである「古事の森」を設定・育成しています。

奈良所においても、「春日奥山古事の森」を設定し、運営を行っており、「木の文化」を支えるための各方面の取組みについてシンポジウムを開催します。

* 募集締切

平成26年10月6日 必着 (先着200名)

* 日時・会場

10月18日(土) 9:00～15:30
奈良県文化会館 小ホール

* 【第一部】 シンポジウム

(9:50～12:00)
基調講演とパネルディスカッション

* 【第二部】 木の文化を知る散策(いずれか)

(13:30～15:30)

- ・春日山原始林の散策コース
- ・興福寺中金堂再建現場見学コース

※天候により、変更又は中止場合があります。

また、人数によりご希望に添えない場合がございますので、あらかじめご了承ください。

* 応募方法・その他

以下について、FAX・メール・ハガキにて送付ください。

・〒 ご住所

・お名前(ふりがな)、年齢、電話番号

・第二部の希望(第一部のみ・春日山コース・興福寺コース)
参加決定者には「参加通知はがき」を送付します。

(9月18日以降順次送付予定)

当日受付にハガキをご提示のうえ、参加費500円をお支払いください。

第二部へのご参加の方は、散策が可能な服装・履物でお願い致します。(不意の降雨への対応もご準備下さい。)

* 応募先・問い合わせ先

奈良森林管理事務所 「春日奥山古事の森」事務局
TEL: 0742-53-1500

HP: <http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/nara/information/h261018kojinomori.html>

○ 古事の森とは?

日本の木の文化の象徴である、伝統的木造建築物を後世に伝えていくために200～400年かけて大径・長尺で良質な修復・再建用材を育て、また、伝統的木造建築物と森林のかかわりについて皆さんに知っていただくことを目的に国有林に設定している森林です。

「地域管理経営計画等に関する有識者懇談会」 の委員を募集します。

近畿中国森林管理局では、管内の国有林野の管理経営を計画的に実施するため、森林の機能区分や森林の取扱いを規定する森林計画を定めています。この度、国有林野の管理経営に広く国民の皆様の意見を反映し、国民共通の財産である国有林野を名実ともに「国民の森林」とするよう公益重視の管理経営を一層推進するとともに、地域の森林・林業再生へ貢献するための取組を進めていくため、「地域管理経営計画等に関する有識者懇談会」の委員を募集いたします。

- * 募集期間
平成26年8月4日～9月3日（必着）
- * 応募資格
次のすべてに該当し、国又は地方公共団体の議員、常勤の公務員、国の行政機関の出身者等は原則として委員になる事はできません。
 - ・ 国有林野事業に関心のある方
 - ・ 任期中の平日に開催される懇談会に出席できる方
 - ・ 平成26年4月1日時点で満20歳以上70歳未満の方
 - ・ 近畿中国森林管理局管内に在住の方
- * 募集人員及び委員の任務と任期
1名 平成27年3月31日まで
地域管理経営計画（案）等の森林計画に対してご意見を述べて頂きます。
- * 応募方法
応募される方は、以下のテーマの中から1つ選択し、近畿中国森林管理局に対する意見・提言等を1,000字以内にまとめ、住所、氏名、生年月日、性別、職業、電話番号をご記入の上、写真を貼付けた履歴書を添えて、提出してください。
 - ・ テーマ
 - (1) 地球温暖化防止のため近畿中国森林管理局がなすべきこと
 - (2) 生物多様性を保全するため近畿中国森林管理局がなすべきこと
 - (3) 森林・林業再生のため近畿中国森林管理局がなすべきこと
- * その他
懇談会に出席された場合には、当局の規程に基づき手当、旅費が支給されます。
応募書類は返却されませんので、ご了承願います。
局内に設置する公募委員選考委員会において選考し、平成26年9月中旬頃に選考結果を通知いたします。
- * お問い合わせ先
近畿中国森林管理局 計画課 企画係
TEL：06-6881-3476
- * 詳しくは、ホームページ内、PDFをご覧ください。
http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/pdf/26yuusikisha_boshuu.pdf

「大山並木松（2代目）の下草刈り及び 自然観察会」の開催

豪円僧正の発意により「大山寺詣り」の道しるべとして植栽されたと伝えられる「大山並木松」を将来に引き継がれるようにとの趣旨から平成14年に2代目松の植樹を行いました。今年も昨年に引き続き2代目松の手入れのため下草刈と施肥を行います。

また、あわせて下山キャンプ場を散策しながらの専門指導員（大山森林生態系保護地域保全管理協力員）による自然観察会を開催します。

- * 募集
8月25日（月）まで 先着20名
- * 日時
平成26年9月6日土曜日（小雨決行）
 - ・ 下草刈、施肥 10:30～12:00
 - ・ 自然観察会 13:00～15:00
- * 参加対象者
健康で登山ができる人（高校生以上）
- * 申込み方法
FAX、ハガキにより、住所・氏名・年齢・連絡先番号を明記し、申し込みをして下さい。
- * その他
参加費は、100円です。（損害保険料）
登山に適した服装・靴、弁当、水筒、雨具、軍手、ゴミ袋、空のペットボトル（液体の施肥をやる時に使います。500ml用で構いません）をご持参ください。
- * お問い合わせ先
鳥取森林管理署 「二代目松 下草刈及び自然観察会」
担当：森林技術指導官
TEL：050-3160-6125
- * 詳しくは、ホームページをご覧ください。
http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/tottori/information/event_boshu.html



平成26年度

「森林の調査隊!! フォトコンテスト」作品募集

箕面森林ふれあい推進センターでは、フォトコンテストの作品を募集しています!

沢山のご応募をお待ちしております!!

* 募集期間

平成26年6月2日～10月6日(当日消印有効)

* 募集テーマ

①「身近な森で見つけた動植物(昆虫・動物・植物)」部門
・鎮守(神社)の森やお寺の森など、身近な森や里山を探索して見つけた、その森に生息する昆虫や動物の姿及び植物などをテーマとした写真

応募対象: 小中学生の個人

応募写真: 1枚単位、A4版カラー(デジタル写真)

※200字程度のコメントを添付

②「森林と人との関わり」部門

・森林(里山)散策や森林での整備活動などで感じた心象やボランティア活動等での自然とのふれあいなどをテーマとした写真

応募対象: 小学生以上～大人の個人又はグループ

応募写真: 3枚1組、A4版カラー(デジタル写真)

※400～600字程度のコメントを添付

* 応募方法

応募票に必要事項を記入し、各写真ウラ面に応募票を貼付して郵送してください。(応募票は、ホームページからもダウンロードできます。)

※撮影した動植物の名前は自分でつけた名前でも可ですので応募票にご記入ください。

※応募作品は、デジカメ・携帯電話端末等のデジタル写真で応募してください。

※募集作品は未発表作品に限ります。

* 応募先・問い合わせ先

箕面森林ふれあい推進センター

TEL: 06-6881-2013(平日8:30～17:00)

HP: http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/

平成26年度

山地災害防止標語及び写真コンクール

山地災害に対する国民の理解と関心を深める為、林野庁、都道府県及び市町村が行う「山地災害防止キャンペーン」の関連行事として、標語及び写真の作品を募集しています。

* 募集締め切り

9月30日(当日消印有効)

* 募集テーマ

○標語コンクール

山地災害の防止、森林や治山事業の効果、防災意識の高揚などを広く国民に呼びかけるもの

○写真コンクール

ア. 山地災害を防止する治山施設や治山事業

イ. 防災パトロールや避難訓練など、山地災害防止活動の状況

ウ. 山地災害の状況、その他山地災害に関連あるもので地域や人々の生活との関連が表現されているもの

* 応募資格

自作作品に限り、どなたでも何点でも応募できます。

* 発表

入選作品の決定後、平成27年1月に入賞者に通知し、HPで発表します。

* 応募及びお問い合わせ先

(一社)日本治山治水協会 標語・写真コンクール係

TEL: 03-3581-2288

HP: <http://www.shinrinkagaku.jp/photo/index.html>

花 草 木

今月の花草木は「マリーゴールド」です。

マリーゴールドは、中米(主にメキシコ)原産のキク科です。

主に春に種をまき、夏～秋に花を楽しみ、冬には枯れる一年草で、花色はオレンジ、黄色、赤など暖色系が多く、珍しいものでは、白やクリーム色の花もあります。

マリーゴールドは「聖母マリアの黄金」の意で、マリーゴールドの名前は元々、キク科でも別属の植物「キンセンカ」に対する呼び名であったそうです。

花言葉は、「信頼」、「悲しみ」、「嫉妬」、「勇者」、「悪を挫く」、「生命の輝き」、「変わらぬ愛」、「濃厚な愛情」です。

森林のギャラリー(局庁舎1階)

【8月の展示スケジュール】

テーマ: 自然の造形美展

8/5～8/15 森のポエム展

【スモールアート協会】

8/18～8/29 美の鎮守

【アトリエ まほろ】

シリーズ 保護林 第14回

近畿中国森林管理局の保護林

なめらやま

滑山モミ植物群落保護林 [山口森林計画区]



林内の様子

滑山モミ植物群落保護林は、山口県山口市に位置しています。江戸後期(1801～1829年)に毛利藩によってモミの山引苗を植栽された林分で、歴史的、学術的に価値が高いモミ林の保護を目的として設定しています。

当保護林の面積は3.47haで、水源かん養保安林にも指定されています。

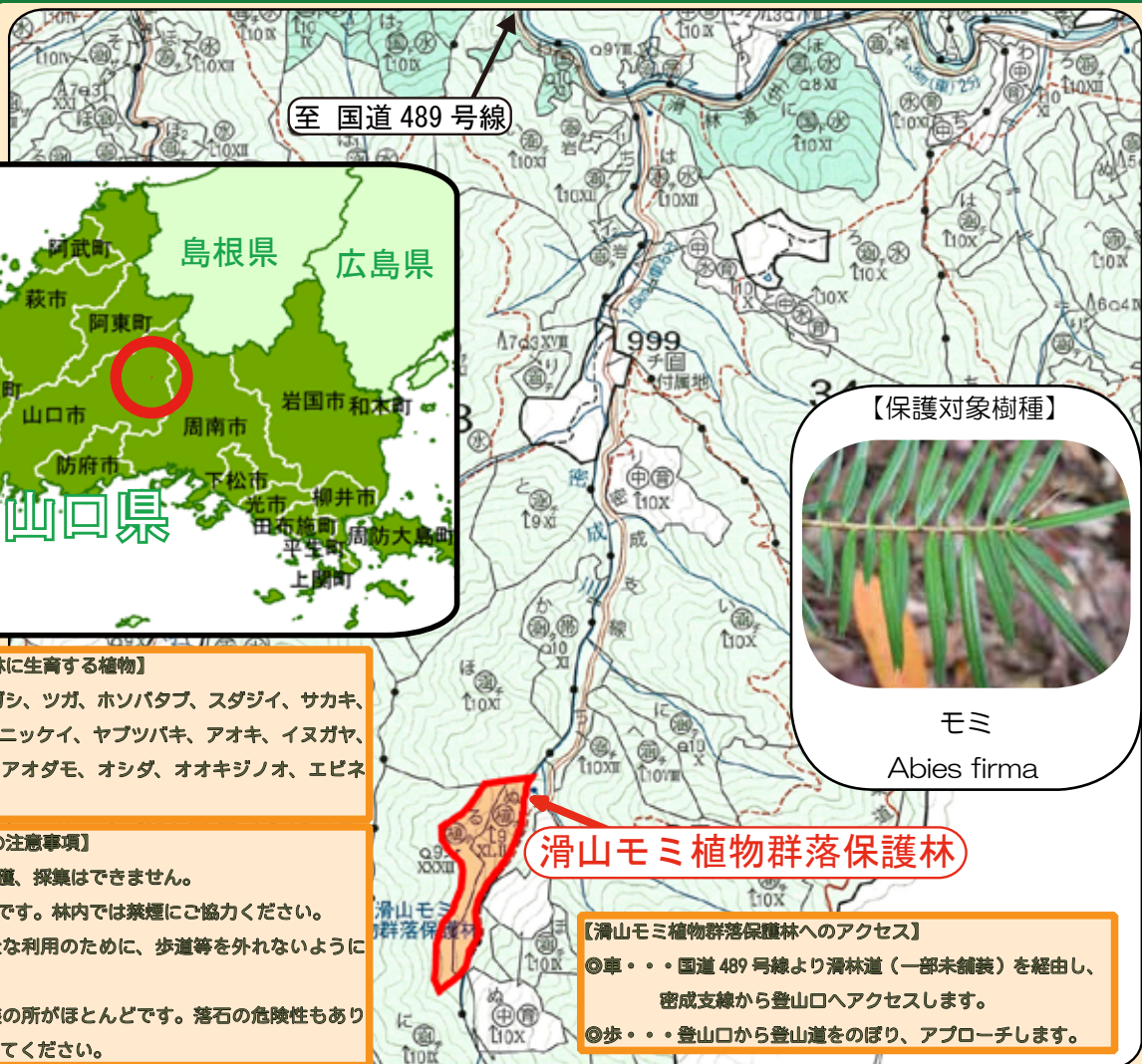
また、当保護林の植生は、保護対象樹種であるモミやウラジロガシが林冠を形成しており、そのほか、サカキ、ツガ、ホンバタブなどが見られます。



林内の様子



モミの巨木



至 国道 489 号線

【保護対象樹種】



モミ
Abies firma

【滑山モミ植物群落保護林に生育する植物】

◎植物:モミ、ウラジロガシ、ツガ、ホンバタブ、スダジイ、サカキ、シロダモ、ヤブニッケイ、ヤブツバキ、アオキ、イヌガヤ、テイカカズラ、アオダモ、オシダ、オオキジノオ、エビネなど

【保護林及び国有林内での注意事項】

- ★国有林内の動植物の捕獲、採集はできません。
- ★国有林内では火気厳禁です。林内では禁煙にご協力ください。
- ★自然環境の保護と安全な利用のために、歩道等を外れないようにお願いします。
- ★林道は幅が狭い未舗装の所がほとんどです。落石の危険性もあります。注意して通行してください。

滑山モミ植物群落保護林

【滑山モミ植物群落保護林へのアクセス】

- ◎車・・・国道 489 号線より滑林道（一部未舗装）を経由し、密成支線から登山口へアクセスします。
- ◎歩・・・登山口から登山道をのぼり、アプローチします。